

文京区アカデミー推進計画策定協議会  
第1回生涯学習分科会

日時：平成22年4月27日

午後6：30～8：30

場所：文京シビックセンター21階 2101会議室

文京区アカデミー推進部アカデミー推進課

文京区アカデミー推進計画策定協議会第1回生涯学習分科会会議録

(敬称略)

「出席委員」

座長	山崎 一穎
委員	清水 智博
委員	佐藤 成臣
委員	榊田 慶輝
委員	黒木 美芳
委員	渡辺 みゆき
委員	八木 茂

「事務局」

アカデミー推進部アカデミー推進課	八木 茂
アカデミー推進部アカデミー推進課	内藤 浩司
アカデミー推進部アカデミー推進課	佐藤 祐司
株式会社富士通総研	稲永 和年
株式会社富士通総研	瀬戸 香織

○**山崎座長**：それでは、始めさせていただきますが、全体会で何回か集まりましたけど、正式に分科会を持つのは今日が第1回。4月の最初ですから、役所のほうも人が替わり、あるいは委員のほうもそれぞれの団体の代表の方の変更があったりいたしますので、事務局のほうから、そういうことを踏まえて、報告をいただけるとありがたいです。

○**事務局**：それでは、事務局のほうから本日の出席状況についてご報告申し上げます。

本日、村松委員から欠席の連絡が入っております。

また、新年度になりまして、人事異動等により委員の変更がございました。そのために分科会委員の名簿をお手元のほうにお配りしております。新たな委員といたしましては、観光分科会の東京商工会議所文京支部からの団体推薦で、新保事務局長から中井事務局長に変更がございました。

また、行政側も異動がございました。生涯学習分科会および文化芸術分科会の毛利課長から八木課長に、それからスポーツ振興分科会の太田課長から古矢課長に変更がございました。報告は以上でございます。

○**山崎座長**：特にこの分科会に新たに八木課長が就任されましたので、一言ごあいさつをいただくとありがたいのですが。

○**八木委員**：4月から毛利課長の後任ということで就任をいたしました八木でございます。前職は税務課でした。こちらの分野は初めてなのですが、この1カ月いる中で、まさに文化ということでのカルチャーショックといいたしめようか、いろいろな本当に幅の広い活動が区内にあるなということを感じてございます。区としては日本一の生涯学習ということも目指していますので、こういったことを念頭に置きながら、皆さまと一緒に進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

○**山崎座長**：こちら側も若干の自己紹介をしないといけないだろうと思っておりますので。

まず、座長を務めさせていただいております山崎と申します。私自身は今、跡見学園の中学・高校の校長と、昨年10月からは理事長を仰せ付かっていて、そういうことで毎日動いているんですが、週に1日だけ大学に出向して授業をやっていますが、私自身が生涯教育に一つ興味を持っているのは、大学を出て勤めた学校が、千葉県の船橋という高等学校の夜学部の教師を8年やりました。その夜学の教師をやったということが、私自身の教育の原点でもありますし、同時に三鷹の社会教育にかかわり、中野の老人学級にかかわり、この3月まで国立の市民講座にかかわって、そういう経験を私自身は持っております、そういう意味で文京区の生涯学習というものの大きな枠組みの中で、皆さん方と一緒に少し考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

○**清水委員**：文京区の小学校PTA連合会から推薦で参りました清水と申します。あまりアカデミーのことは詳しくはないし、これからゆっくり勉強していきたいと思っておりますので、どうぞお付き合いのほど、よろしくお願い致します。

○**佐藤委員**：佐藤でございます。どうぞよろしくお願いたします。

私は、現在はアカデミー文京の学習推進委員会のほうの枠から推薦でこの会議のほうに参加させていただきました。生涯学習の研究のほうは、平成9年ぐらいからやっておりますので、約10年強の研究になっております。現在は、生涯学習のことで大学で講義をしたりとか、あと地域のほうでそういうお話をしてくれという形で出掛けております。また、昨年ぐらいから国のほうからお仕事を少しいただいて、文化ボランティアとかその辺のコーディネーションの研究もしております。

あと、現在は自営なのですが、それ以外にファシリテーターとあって、こういったグループワ

ークをやる研究とかを専門にやっております、現在その事務局の局員のほうをしております。どうぞよろしくお願いいたします。

**○榊田委員：**榊田でございます。私も生涯学習関係の団体から選ばれた者でございます。

4年前の67歳で会社現役を辞めた時、地域にいかにかに定着し区民の中に溶け込めるかという気持ちから、生涯学習の文京アカデミア関係に参加せる機会を持ちました。アカデミア講座の開講時、講座の運営サポーターを担当しています。現在は任意団体サポーターの会の事務局も担当して情報の受・発信を含めてメンバーの共有と協働の向上に努めています。

現役時代には、管理システムなどの開発を担当した経験してことがあります。予算管理システムを製作したときこと、効果を得ようと場合は参加する人々が自分自身のものとして活用していただき成果を上げた実績があります。色々なシステム作りでの基本は、達成したい目標値などの設定と実際に活動する実態の把握、実態を目標に向けて更なる改善と改良に寄与できるかのフォローアップを常に心してマネジメントしてまいりました。

現在は地域に活動に参加して初めて感じることがあります。行政側の役割、ボランティアの役割、NPOの役割、住民の役割など一方的に役割についての要求や要請を行う傾向が多くなっているように思う。関係者の役割の分担の中でパートナーを築き、目標設定の役割分担やこれらを実現するための推進する役割分担を認識し組織化すること、これらの両輪が協力し前進することを実感しています。目標は、みんなが楽しく活動できる生涯学習の場になればと思っています。長くなりましたけれども、よろしくお願いいたします。

**○黒木委員：**黒木でございます。区民公募ということで、ここで委員をしております。今現在、生涯学習司をしておりますし、それからアカデミア文京の学習推進委員もしております。一方、自分で自主学習サークルを2つ持っております、それを引っ張っております。同時に、自主学習サークル連絡会という、幾つものサークルの集まりの世話人もしております、現場のほうからいろいろ考えてみようかなと思っています。

過去は、教育事業に携わってきておまして、若者の育成を含めてずっとやってきた過去があります。よろしくお願いいたします。

**○渡辺委員：**私も区民公募に応募いたしまして、それでこちらに来ました。昨年ですが、生涯学習司という講座を受けさせていただきました、その認定書をちょうだいいたしました。それを機に生涯学習というのに興味を持ちまして、文京区に移ってきてからまだ5年目なんですけれども、文京区でのそういう活動に少しでもお役に立てればというか、学習司として何か仕事ができればと思ひまして公募に応募いたしました。

仕事のほうは、前回区民プロデュース講座というのに応募いたしまして、もともと仕事が陶芸家で、陶芸教室なんかで粘土を教えている者なんですけれども、その講座を自分で企画しまして、実際に前回やらせていただきました。皆さんに集まっていただいて、楽しい講座ができました。

それ以外では根津のほうで、不忍通りふれあい館という施設があるんですけども、そこで陶芸サークルを皆さんでやらせていただいていたたり、あとそれ以外では、学校に陶芸を教えに行ったり、そういうような活動をしております。

陶芸を始める以前は広告代理店におりまして、PRの仕事をしておりました。そんなことも活かして、いろいろでお役に立てればなと思っています。よろしくお願いいたします。

**○山崎座長：**一通り自己紹介が終わったところで、事務局のほうから今日の配付資料について説明をしてください。

**○事務局：**それでは事務局のほうから、本日の配付資料につきましてご確認させていただきます。

まずお手元に本日の資料が7点ございます。まず座席表、分科会委員名簿、分科会スケジュール

ル、第4回の協議会会議録(案)、緑色の冊子で、基礎調査報告書、分科会ご意見シート、最後に、生涯学習分野の現状説明資料といたしまして、ホチキス止めをしてあるものです。平成21年度区内大学と区との連携実績等と生涯学習推進事業の実施状況をお配りしてございます。ご確認のほうをお願いいたします。もし不足等がございましたら、お申し出いただければと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは続きまして、事務局からでございます。本日お配りしております資料の中の前回の会議録(案)の訂正確認についてでございます。会議録の案につきましては、本日お持ち帰りをいただきまして、連休を挟んで、誠に時間がなくて申し訳ないのですが、5月6日木曜日までにご確認をお願いいたします。5月6日木曜日までをお願いいたします。万が一訂正がございましたら、事務局へご連絡をお願いいたします。訂正は文書でいただきたいと思っております。ファクスまたはメールをお願いいたします。ただ、非常に簡易な訂正等につきましては電話でもお受けいたしますので、よろしくをお願いいたします。

訂正依頼に基づきまして調整をした後に、山崎会長のほうに確認をしていただきまして、ホームページ等で公開をさせていただきたいと考えてございます。また、本日の分科会の運営についてでございますが、既に第1回の協議会の際にご了承いただいておりますが、分科会の会議の傍聴、会議録につきましては、アカデミー推進計画策定協議会の運営に準じまして運営をさせていただきますので、ここで改めてご確認をさせていただきたいと思っております。

それでは続きまして、資料のご説明をさせていただきます。

本日の議事進行につきましては、先にご郵送させていただきました分科会の次第に沿って進めさせていただきたいと考えてございます。お手元でございますでしょうか。それでは、まず1枚おめくりいただきまして、1ページをお開きいただきたいと思います。第1回分科会の進め方についての資料でございます。こちらについて、初めにご説明をさせていただきます。

Iの第1回分科会のテーマでございます。こちらは分科会で何をテーマにするかということでございますが、1点目は、アカデミー推進計画にかかわる文京区の現状を把握して、課題等を洗い出すということでございます。本日のメインテーマということで、会の皆さまには事前をお願いをしていた作業になります。進め方につきましては、後ほど改めてご説明を申し上げます。

2点目でございますが、分科会は4回を予定しております。この4回の分科会で、分野別に取り組んでいく方向性を検討してまとめていきたいと考えております。

続きまして、IIの本日のプログラムについてでございます。次第と重複する部分がございますので、この場では説明を割愛させていただきます。

それでは、もう一枚おめくりをいただきまして、2ページでございます。IIIの分野別計画の位置付けについてでございます。こちらは第4回の協議会での議論を踏まえまして、山崎会長のほうに確認をして、まとめさせていただきました。総論につきましては、基本理念や基本目標、基本的視点など、計画全体をたたく部分でございます。こちらは、今後の社会状況の変化に応じて、修正を行ってまいりますのでございます。

各論につきましては、分科会で検討をお願いする部分でございますが、3年間の計画期間といたしまして検討を進めていただきたいと考えております。

なお、資料の6ページにございます資料生涯第2号に、分野別の体系イメージ、それから7ページに資料生涯第3号の各論の構成内容(案)がございます。こちらをご覧くださいまして、4回の分科会で検討したものを、最終的にどのような形にまとめていくかのイメージをお持ちいただければと考えてございます。後ほど細かくご覧いただきたいと思います。

続きまして、IVの分科会の目的についてでございますが、協議会で議論したアカデミー推進計画の基本理念、基本目標、基本的視点に沿いまして、各分野ごとの内容をより深く議論していただきまして、分野別の計画の事業例、数値目標例等を作成してまいります。そしてその具体的なスケジュールですが、Vの分科会の流れについて(予定)の表のとおり進めてまいりたいと考えてございます。

それでは、もう一枚おめくりいただきまして、3ページをご覧ください。こちらが本日の大きなテーマとなりますIV、課題の洗い出し、分野別計画の方向性、検討の進め方ということでござ

います。この後、実際に委員会の皆さまには、このシートのステップ1から4と書いてございますが、この順番に沿って作業をしていただこうと考えてございます。

もう一枚おめくりをいただきまして、4ページでございます。こちらは分科会での留意事項になります。分科会の全体の司会進行は山崎座長に行っていただくことといたします。委員の皆さまにはグループ討議を行っていただきますので、その基本的なルールを下の四角の囲みの中にお示ししてございます。こちら、後ほどお読みいただければと思います。

少し長くなりましたが、事務局からの説明は以上でございます。

**○山崎座長:**今の説明の分野別の位置付けについて、総論の部分で示す基本理念などについては、5つの分野に共通する基本的な考え方として、前から出ていっているとおり10年ぐらいを見ましよう。今、事務局から説明があった3年というのは、少し具体化してくるとそういう形に絞られるだろうと思うんですね。だから、23年度から3年ぐらいの分野別の目標とか、基本的な方向とか、事業例について検討していく。

さらに、いろいろな意見が出てきて、行きつ戻りつということは当然あり得るだろう。最初からきちんと積み上げ式にはなかなかいかない。ですから、今日の書き出しの作業の中で、皆さん方のご意見が一つの方向にまとまっていけばいい。

最終的には、イメージとしてこういうことになります。6ページの各部門の体系イメージというところ、それから7ページのところが、極端に言えば6ページのここが埋まればいいという形になるかと思うんですね。最終的には、いろいろな意見が出てきて、そこに分野別の目標、基本的な方向、事業例、こんなふうなところに落としこめるような表ができれば一番いい。こんなイメージを持った上で、あまり縛られないで進めていければと思っております。

それでは、まず、現状について説明をしていただかないと駄目だろうと思いますので、よろしく。

**○事務局:**それでは、事務局のほうから生涯学習分野の現況ということで、お手元にホチキス止めでA4横書きの「平成21年度区内大学と区との連携実績等」という資料をご覧くださいと思います。

こちらは、平成21年度に行われました生涯学習分野にかかわる区内大学と区との連携事業を掲載しているものでございます。こちらの主なものをご説明させていただきます。

まず初めに、区内大学との相互協力に関する協定でございます。区内大学は新たに2大学、文京区内に増えまして、まず1つが、日本社会事業大学の文京キャンパスでございますが、こちらは小石川5丁目の小石川図書館の近くに1つ開設されております。

それからもう1大学、国際仏教学大学院大学。こちらは春日2丁目の金富小学校の隣に新たに開設されております。区内には現在、短期大学を含めまして、18の大学がございます。このうち11の大学と相互協力協定を締結して、連携事業を進めているところでございます。

次に、生涯学習担当者連絡会でございます。こちらは、財団法人文京アカデミーのほうで設置している会議体でございますが、区内で生涯学習を進める大学等担当者、相互に生涯学習情報の連絡を行うものでございます。こちらは年に2回会合を開いております。

次に少し飛ばさせていただきます。文京アカデミア大学プロデュース講座でございます。こちら財団法人文京アカデミーが実施している文京アカデミア講座の一分野といたしまして、大学の人材やキャンパスを利用した講座を実施するという内容のものでございます。詳細については、後ほど別の資料で改めてご説明をさせていただきます。

次に、その下の大学学長講演会でございます。こちらは毎年1回、区内にある大学の学長さんに交代で講演を行っていただいているものであります。

次に、その下の人材育成講座でございます。こちらは今回の分科会の委員の皆さまの中にもいらっしゃると思いますが、地域における生涯学習の人材を育成するために、区の独自資格でございます生涯学習司、地域文化インタープリターの養成講座をそれぞれの大学の協力を得て開催しているものでございます。

次に、その下の資格取得キャリアアップ講座。こちらも財団のほうでやっている事業なんです。こちらは、日本女子大学の生涯学習センターで実施いたします資格取得試験対策講座に区民の枠を設けまして、そのうち受講料の1割程度でございますが助成することによりまして、資格取得を支援するというものでございます。キャリアアップ講座の内容なんですけれども、21年度は秘書検定の準1級、それから日商簿記検定の3級、カラーコーディネーター検定3級、宅地建物取引主任者試験、総合国内旅行業務取扱管理者試験、保育士資格筆記試験の講座を実施してございます。

2ページをご覧くださいませでしょうか。

2つ目の鹿屋体育大学公開講座でございます。こちらは、昨年鹿児島県にございます国立大学法人鹿屋体育大学のサテライトキャンパスが区内に設置されまして、これを記念いたしまして区民を対象に公開講座を行ったものでございます。

次に、その下の大学附属図書館の区民開放でございます。現在までに東洋大学、文京学院大学、お茶の水女子大学、跡見学園女子大学、拓殖大学の5つの大学の図書館が、区民に開放されております。

次に1つ飛びまして、花の五大まつりへの協力。それから、根津・千駄木下町まつりへの協力ということで、こちらは東洋大学さんの学生さんが運営に協力してくださったり、あるいは模擬店を出店したりと、地域の祭りに積極的にご協力いただいているという内容のものでございます。

最後に、一番下のリサイクル推進サポーター養成講座「文京エコ・カレッジ」でございますが、こちらは地域でのリサイクル推進活動やリサイクル事業への区民参画を進めるために、人材を育てる養成講座を開講しているものでございます。

21年度の区内大学との連携実績については以上でございます。

続きまして3ページをご覧ください。生涯学習推進事業の実施状況でございます。こちらは、アカデミー施設の指定管理者でございます財団法人文京アカデミーに、区から委任している事業の一覧でございます。ただ今ご説明いたしました大学連携事業と重複しているものがございませので、それ以外の主なものをここでご説明します。

初めに1番の文京アカデミア（講座・講演会）、（1）一般講座でございます。自主企画講座、大学プロデュース講座、民間教育機関企画講座、こちらの3つの講座が生涯学習の柱となっておりまして、まとめて文京アカデミア講座と呼んでおります。こちらは地域、文学、歴史、社会、暮らし、語学、健康スポーツの6分野、21年度は、全体で76講座の中から選んで受講をさせていただくという内容のものでございます。受講者数は、全体で2,135人となっております。

次に、その下の区民プロデュース講座でございます。こちらは区民の方々からの提案による講座で、区民自らが講師となったり、あるいは企画者や運営者として講座を開催したりという内容のもので、21年度は18講座、363人の受講者となっております。

次に、（2）テーマ別講座でございますが、こちらはこちらに記載されているとおりでございます。

次に1つ飛びまして、（4）協力事業でございます。企業メセナ講演会。こちらは、企業の協力による講座・講演会を実施しているものでございまして、21年度はNPO法人の投資と学習を推進する会と協働いたしまして「初心者のための証券投資講座」を開催いたしました。

1枚おめくりいただきまして、4ページをご覧くださいませと思います。

2、生涯学習の推進事業でございます。（3）文京アカデミア生涯学習一日体験フェアでございます。こちらは21年度に試験的に開催したものでございまして、区内で行われております生涯学習活動を一堂に集めて紹介する催しを行ったものでございます。9月と3月に、地下1階のアカデミー文京の全室を使って実施いたしました。200人以上の来場者があつたと財団のほうからは聞いてございます。

次に3、人材育成事業の中の文京アカデミア学習推進委員会でございます。こちらは区民公募の委員の方や学識経験者の方々の17名で構成されてございまして、毎月1回開催して、講座内容の検討、あるいは文京アカデミア学習支援者のサポートなどを行っております。

5ページをご覧ください。（2）生涯学習相談事業でございます。こちらにも21年度に試験的に

行ったものでございまして、区民プロデュース講座の提案者への支援、あるいは受講希望者への支援を行ってございます。

最後になります、一番下に掲げてございます、これまでの人材育成事業等により育成した人材ということで、生涯学習司、文京アカデミアサポーター、文の京地域文化インタープリターなどの数を掲載してございます。後ほどご覧いただければと思います。

私からの生涯学習推進事業の説明は、以上でございます。

**○山崎座長：**今の説明についてご質問を受けるわけですが、全体会の中から常に問題になっていたのは、大きな文京区の基本構想があるじゃないですか。その構想とここでやるのが、齟齬したらどうするのだと、それがきちんとつながっているかどうかという意見がかなり出ていたわけです。この点に関しましては、座長のほうと、行政のほうと、それから皆さん方から出た意見の調整をこちらで図りますので、ここではとにかくそういうことにあまりとらわれなくて、皆さん方の今までの経験と、それから今この実施計画で述べられてきていること、それからこれからの生涯学習で今、文京区がかなりものを持っているわけです。当然かなりのものの中で、まだ十分でないもの、あるいは今のものを少し形を変えるともう少しいいものになってくる、いろいろあり得るだろうと思いますので、とにかく自由にお互いに意見を述べた上でまとめていきたいと、座長としては思っていますので、あまり気になさらないで、むしろ逆にここでいい意見が出たら、上のほうを取り換えればいいと私は思っているぐらいなものですから、そのようにひとつお互いにいきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

今、事務局から説明がありましたことに関して、もしご質問がありましたら。

**○佐藤委員：**何でもいいですか。

**○山崎座長：**何でもいいですよ。

**○佐藤委員：**進め方があるので、このペーパーの3ページ。6番の課題の洗い出し、分野別計画、方向性の進め方のところのステップの1番です。これからこれは付箋作業が入っていくと思うんですけども、いきなり3色の付箋を、おのおの課題を書き出すというのは可能なんでしょうか。

やり方からすれば、これはまず難しいと思うので、黄色の付箋から始めてみて、その後に意見が集約された後、ピンクと青を付けていくという形のほうが、より意見は出しやすいと思うんですけども。

**○事務局：**富士通総研の稲永です。よろしくをお願いします。

それは、なかなか皆さまのほうでこれが特徴です、これが課題です、そしてその背景はこれですというふうにシステムチックに最初から考えるのは難しいと思いますから、できる方はやっていただいて構わないんですけども、そうじゃない方も非常に多いと思いますので、皆さんがお気付きの点をまずは書いていただいて、私どものほうで壁に張っていく際に、これは特徴だな、これは色が違って課題っぽい、これは背景っぽいというふうに分類、整理してまいりますから、あまりこだわらなくても構いません。

**○佐藤委員：**では、色は替えなくていいということですね。

**○事務局：**できれば考えていただければですけど、無理して考えなくても大丈夫です。

**○佐藤委員：**いきなりフレームワークを出されてしまったので、大丈夫かなというのがちょっとあったもので。

**○八木課長：**ほかの分科会にも私は参加、見学させてもらってますけども、いろいろな色で使っていてはいますが、それは後でまた張り替えることができますので、その辺はお気になさら



ずに。

○佐藤委員：分かりました。

○事務局：とにかく皆さまの意見をちょうだいすることが第1番ですね。

○黒木委員：関連していいですか。課題と書いてありますけれども、これは問題というのとどう差を付けて言葉を使っているんですか。課せられた題なんですか。それとも問題なんですか。

○事務局：行政の場合は、課題というとは何かできていないことが課題であるということはあまりやらないで、これからこうしていくことが課題ですというふうになっています。

○黒木委員：課題というと、やることが決まったことになっちゃうじゃないですか。

○事務局：最終的にはですね。

○黒木委員：決める前の段階は？

○事務局：ですから今日の段階では、これが課題ですというふうに振りかぶらなくても構いません。

○黒木委員：解く、解かないは別にして、問題だなということでもいいわけでしょう。

○事務局：そうです。ですから、それ以外の例えば実態調査もやりましたし、現況なんかも整理していますし、皆さまのご意見を。それから今、いろいろな部分でいろいろな計画を作っているんですけど、そういったところから見て、文京区の今後のこの計画の課題はこうだろうというのを皆さまに後日お示しをして、ご検討いただくようになると思いますから、今日の段階ではそまでお考えにならなくても構いません。

○山崎座長：私のほうから1つ聞きたいのですが、基礎調査報告書を見て1つ気になったのは、生涯学習に対する興味はどんなものが……、

○事務局：35 ページですね。

○山崎座長：そうですね。どんなものがあるかというので、教養的なものというので文学、歴史とかいうのが、また 37.6%で多いわけですね。その場合、アンケートの取り方にもよるのだらうと思うんですけど。

例えば今ここで自己紹介を受けたような皆さん方は、実際に講座を自分らで受講して、自分たちでつくっていくという、つまり参加型の意識を持っておられるんですね。ところが、生涯学習に素朴に、大学で公開講座なんかをやると、例えば古典文学なんかをやると、先生が源氏の講義をしてくることを黙って聞くことの楽しみというのが、またお年寄りたちにはあるんですね。それがこの中で必ずしも興味があって参加していく、だけど自分らで自主グループをつくって何かをやっていくのは嫌と。だから今、聞くということの区別がどうなっているのか、ちょっと見えない。恐らくアンケートは単なる興味がありますかとか、どんな分野というふうには聞いているのではないかと思うんですけど、その辺はどうですか。

○事務局：実態調査は今回、5分野を 12 ページぐらいの調査表でやっていますから、普通は例えば生涯学習だったら生涯学習だけで 12 ページぐらいの調査をやる団体さんが多いんですけど、今

回の場合は分野が非常に限られていて、5分野あって限られていますから、そこまで深掘した質問ができていないのです。ですから、ここに挙がってきているものは、区民の皆さんの意見であることは間違いないと思いますが、ただそれは今も申し上げたとおり限られた質問であって、皆さまが日ごろ生涯学習の分野にかかわる中でお感じになっていること、いろいろな立場の方がいろいろな生涯学習を受けていると思いますから、その生きた意見はどうしても出てこないわけです。ですからそのところを、日ごろお感じになっているところを、今日のような分科会で出していいただければ大変ありがたいなと思います。

○山崎座長：分かりました。あとご質問は？

○黒木委員：調査報告書に関してでもいいですか。クラスター分析をやって、5つのタイプをやっていきますけど、それに名前を付けなかったのですか。

○事務局：これは、付けるのが難しいということがございましたので。

○黒木委員：担当したところだから、やらなかったのかと思ってね。皆さんが決めたならしょうがないですけど。

○山崎座長：恐らく最初から付けてしまうと、固定観念をもたれてしまうという配慮をしたと思われる。

○佐藤委員：それでよければ、すみません、あります。10ページの調査母数なのですが、居住年数20年以上の42.5%で、0.6%の無回答を抜いた場合についてのその他の部分が20年未満ということを見ると、15年以上20年未満というのも長期居住者と考え、約5割の人間が15年以上お住まいになっているということは、データにバイアスが掛かりませんか。これは、一応母数がこれだからしょうがないのかもしれないですけども、出てくるデータというのは、15年以上住んでいる人のデータが当然のことながら母数が大きくなるということは、何となくデータにバイアスが掛かるような感じがするんですけど。

○事務局：クロス集計をやったら、そうなるかもしれません。

○佐藤委員：なるほど。その辺のバイアスというのは、ある程度数値を見ながら、少し割り引いたり足したりするという形で見ていたほうが、実数に近いものなのですか。それとももう回答しないということは、イコール興味がないというような母数としてとらえていったほうがいいのでしょうか。

○事務局：そこは、実態上でなかなか難しいところですね。いつも私たちが苦労するところなんですけど。

○榎田委員：これはアンケート調査をされたときに、文京区の生涯学習ということに限定されていないのですよね、全体ですよ。

○事務局：そうですね。

○榎田委員：といたら、ここで30代の仕事に関係のある仕事といたら、会社の中も全部一緒ですので、会社の中で……、

○佐藤委員：要するに職業教育もカウンティングされてしまうということですか。

○**榊田委員**：うん、全部入っているから。

○**黒木委員**：そうそう、当然生涯学習。

○**榊田委員**：それから、文京区に限定ではないのですね、一般的な。

○**佐藤委員**：ということは、例えば新宿のところで学んでいくところも、カウントされているのですね。

○**榊田委員**：そうです。全体の皆さんの学習に対する受け止め方で書いているという、一般的になるという。

○**山崎座長**：傾向は、とにかく分かるわけですからね。

○**榊田委員**：はい。

○**佐藤委員**：数字にはあまりとらわれなく、基本的なほうがいいかもしれない。

○**山崎座長**：とらわれなくていいのではないかと思うのですね。

○**佐藤委員**：分かりました。

○**八木課長**：ほかのところの補足でよろしいでしょうか。ほかの委員会のほうでも確かあったような話なのですが、要はこの数字は1つの傾向ですけれども、とらわれることもないと。ただ、数字は明らかに上がっているのに違う結論を出す場合には、私たちなりに、説明責任を果たすことも必要ではないでしょうかというお話をしておいた経過がございますので。

○**山崎座長**：それは片一方で無視はできないですよ。

そういうことで、とにかく特色とか課題とか、課題、問題を少し絞るというか、広げるというか分かりませんが、とにかくそういうことで書き出すことをやらざるを得ないだろうと思いますので、ひとつ今皆さん方が考えていることを少し。何分ぐらい時間を取りましょうか。

○**八木課長**：書くのに、ここで少ないですけど……、

○**山崎座長**：10分ぐらい。7時25分ぐらい、10分ぐらいの時間の中で。

○**八木課長**：もう少し説明してもらったほうがいいかもしれない。

○**山崎座長**：そうですね。もう少し説明してもらいましょうか。どうですか。

○**八木課長**：このやり方について説明を。全く分からない方もいらっしゃるのでは。

○**事務局**：それでは私のほうでやりましょう。

○**八木課長**：はい。

○**山崎座長**：例えば具体的にアンケートを取られた富士通総研さんのほうで、例えば文京区の特徴としてこういうことがありますということを、ちょっと1つの例として、一例書いてください。

そうすると分かりやすい。

○事務局：架空かもしれませんが、そこはお許してください。

○山崎座長：いいですよ。

○事務局：スポーツの分科会でも少し書いたんですけれども、例えば区内に18大学あるということですので、最初に特徴を。皆さんがどういうことを書くかは、皆さんのお考えで書いていただければいいと思うんですけど。

最初は黄色。大学が多く、生涯学習の機会に恵まれている。これは長所かもしれませんが、例えばこういうような現状認識があったとして、課題があるのかもしれませんが、架空ですよ。

例えばサラリーマンは日中、参加しにくい。実際の行政計画にした場合にはこういう書き方にはならなくて、例えば中高年、特に男性なんかは、フルタイムで働いている人の生涯学習の参加率を高めることが課題である、というような書き方になるのかもしれませんが、例えば今日の段階はそこまでは書けませんから、問題点なのかもしれません。

その背景は何か。青の紙で書いていただければいいですけど、こだわらなくても、必ずしも。ワーク内バランスが取れていないとか、残業が多く日中は参加できないとか、いろいろな背景があると思いますので、そういったことを、皆さま自身がお考えになっていることを書いていただければいいのかもしれませんが。

私の場合は一般論でここは書きましたけど、皆さま方は日ごろ区内でご活躍なさっていますから、私なんかよりももっと、文京区で日ごろお感じになっていることがあると思いますので、そこを中心に書いていただければと思います。

今日は限られた時間ですから、全部が全部の内容は出てこないかもしれませんが、でも一応10分なら10分、15分なら15分の中で、皆さまにできるだけたくさんのお見聞を出していただければ、こちらのほうでいったん持ち帰って整理をさせていただきたいと思います。まずそれが前半戦です。

それを裏返した形になるのかもしれませんが、後半戦では、そういったさまざまなもの、最初に付箋作業を張り直してまいります、分類を整理してまいりますから、それを見ていただきながら、どの辺あたりが課題になるのだろうというふうに出てくると思いますので、そこを踏まえて、それを解決するための方向性としてはどういうことがあるのだろうというのを、次の後半戦でやっていただければと思いますので、よろしくお願ひします。

○山崎座長：非常に分かりやすい例だと思ひますので。

○事務局：1枚のカードに1つ、皆さんのところには付箋をたくさん置いていませんけど、まだありますからどんどん書いていただければと思います。

○黒木委員：それで、黄色い紙は特徴と言ひましたけど、考えてみれば課題に対する背景になるわけでしょう。

○事務局：最初から……、

○黒木委員：だから、最初から色を分けるのはきついということですか。

○事務局：ええ、きついと思ひます。ですから、あまりこだわらなくて構いません。

○山崎座長：そっちで任せればいいですよ。われわれはとにかく出てくればどんどん書いて。

○事務局：スポーツの分科会もそうだったのですが、結局一色だけでお書きになった方もおいでになります。

○山崎座長：そうですね、7時半までにします。ちょうど10分。

○事務局：あともう一点、皆さん書き終わった後に、そこのご説明を伺うことがありますので、端にお名前を、分かるものを書いておいていただければと。お願いいたします。

(作業中)

○山崎座長：ちょうど10分休憩の時間がたちましたので、改めて席に着いていただいて、今整理したものを、若干大きな項目でそこに赤字で書かれておられますから、そんなことで少しご説明をいただいた上で、なおここに書かれた人たちが、もう少し丁寧に説明をしたほうがいいのかあるだろうと思いますから、あるいは自分で補足したいということ、付け加えたいということもその他に出てくるだろうと思いますので、よろしく。

○事務局：もし見えないようでしたら、席を替わっていただいて。

○事務局：まだ不十分なところもありますので、この近辺に入れるのかなというところに張ったりしていますので、説明していく中で、いや、ここは、私が言っているのはここではなかったとか、また別な柱があるじゃないかとかがあれば、教えていただければと思います。順に上からお話ししたいと思います。

1番上のところ、どういった区民がいるかというところで、ここは文京区内にどういった方がいるかという特徴が、皆さんから出されたのかなと思っております。

例えば、地域の交流に薄い方がいるとか、あとは学び人が多いとか、あとは大学が多くて学生が多いという特徴もあるのかなというところで、このところは、どういった区民が地域にいるかというところでまとめさせていただいています。

○事務局：この場合の区民というのは、住んでいる人には限らないという形でしょうか。

○事務局：そうですね。在勤・在学生を含めてです。

あとここは、学習のメニューの中身というちょっと大きいくりではあるんですけども、今どんな講座があるかというところで、皆さんから少しご意見をいただいていたかなと思います。

例えば、地域に根付いた学習メニューがありますとか、あと課題として、子どものための講座が少ないのではないかといったご意見もありました。あと、もうちょっと広く捉えますと、世代交流ができる講座、一つ一つの講座の中身というよりは、広く世代交流ができる講座というところでもご意見をいただいています。

あとは、多分ここはすごく計画を作る上でも大きいのかなと思うのが、文京区ならではの生涯学習とは。多分これは計画を作る上での永遠のテーマかと思うのですけれども、学習メニューの中身というところで、こういった課題も大きくあるのではないかとというところで、大きく学習メニューの中身というところでグループ分けをしております。

その下にあるのが、連携ネットワークというところで、皆さんからは区内の大学とか、図書館との協働連携のところで多く意見をいただいております。例えば、区の大学の連携のあり方が不十分であるというところとか、あと図書館と大学図書館との相互交流が少ないのではないかとご意見もありました。あとは、大学の特色をもっとPRして大学を生かすというところで、ネットワークの視点もあるのではないかと思います。

その下にある赤色、場所というふうに書かせていただいたんですけども、このところでは、今どういう場所が、どういった生涯学習の場があるかというところでご意見をいただいています。

ちょっとネットワークの連携とも近いところでもあるんですけども、具体的には図書館開放が十分ではないようであるとか、生涯学習館なるものがないのではないかと、あとは単刀直入に、施設不足であるというご意見もいただいております、学習の場所が少ない、不足しているというご意見が多く見られました。

あとは、場所のハード面に対して、ここはソフト面になるかと思うのですけれども、情報提供、相談というところで項目を立てております。情報提供というところでは、ホームページのところでご意見をいただいているのですけれども、「こらびっと文京」の活用がされていないのかというところとか、ホームページが見にくい、分かりにくいというところでもご意見をいただいております。

また、多くのメニューがあるけれども、私はほとんど知らなかったということで、これはやっぱり率直なご意見というところで、ここは課題にもなるところかなという感じがしております。

あとこちら、相談とあるのですけれども、学習相談窓口の設置であるとか、区民へのサービス、窓口が必要であるというところで、ここは実際に人が窓口に立って皆さんの対応する場所が必要だということで、ご意見をいただいております。

あと、紙をまたいでこちらにありますのは、人材活用というグループで今付けていますけれども、やっぱりこちらですと、講座や資格などが地域の中にどうフィードバックされているのか分からないとか、学習成果の地域への還元への対応策を取る必要があるのではないかとというところで、実際に学習された方が、地域に戻ってそれをどう生かすかというところで、多くの課題があるのではないかと感じていらっしゃる方が、多く見られました。

ざっくり分けて、今このような分類になっています。

**○山崎座長：**まず区民という一番のベースのところから問題が出て、そして学習の内容、あるいはネットワーク、そしてハード面の学習の場の問題、それから今度は情報提供とか相談とかいうような、逆に言えば広報を含めたところのソフト面、それから実際にやったところの人材活用というような、かなりの問題が広い分野から出てきております。

それで、今そちらでまとめてくださったことに対して、もう少し付け加えるところがありましたら、ひとつご発言をいただければ、とにかく書いた範囲、紙のスペースが狭いですから、もうちょっと付け加えておいたほうがいいということがありましたら、ひとつご発言いただければありがたい。

再度眺めて見て、大きな問題点は、やっぱりかなり出ているという感じですね。

例えば、先ほどもそちらのほうで言われた文京区ならではの学習というようなことでは、かつて文京学なんていうことを、それが成り立つかどうか今は別個にしても、そういうことをおやりになっていた講座があったはずなのですね。ですから、文京区ならではのということになると、文京の地理と歴史ですね。「茗溪」という地名の「茗」はお茶のことですね。つまり、お茶の水の溪谷の意味ですね。そういうことに疎くなっている。文京の歴史や文化を深めていくと文京学がきっと成り立ってくるのかもしれないなという思いがちょっとしています。

**○清水委員：**ちょっといいですか、すみません。僕はここからとても遠い世界かもしれないし、こういう生涯学習というのをやられている方のお話は聞いたことはあるのですが、実際の活動というのは見たことがないのですね。

こうやって見ていると、目的がよく分からないというか、何で生涯学習をするのだろうかというのと、やられる方の学びたいという気持ちはよく分かるのですけれども、それを行政がこういうことをやってやる目的と、あとやられた後どうしてほしいのという、行政のこういう会議とかでも、学んだものをどう活かすつもりでこういうのをやっているのかというのがよく分からないのですね。せっかく学ばれても、それがただの自己満足で終わっちゃっているような。それはせっかく学んだことなのだから、生かすところまで考えてあげないと、学んだことがただ、自分が分かった、よかった、で終わっちゃったらとてももったいないことだし、というふうに見ているとなおさら思います。

**○山崎座長：**だから非常に抽象的になるのだけれど、こういう学習というのは、やっぱりよき区民になることだと思う。よき区民というのは、自分が住んでいる場所を住みやすくしていく。だから環境だとか、人権だとか、いろいろなものが、それから行政に対するきちんと批判的な目を養うということだろうと。非常に抽象的ですけど、まずそういうことを考えます。

**○佐藤委員：**私はそこをちょっと研究しました。そうすると、お仕事をやっていらっしゃる方とやっていらっしゃらない方で全然目的が違うということで、1つはお仕事をやっていらっしゃる方というのは職能につながる、つまり職業につながらない限り、私はむしろやらないほうがいいと思うのです。こんなことにうつつを抜かしているより働いたほうがいいと思うので、強いというなら、こういう方がいらっしゃいました。ワインの講座に出て、ワインが好きになったら、ワイン研究家になっちゃったという方がいらっしゃるのです。これは明らかに生涯学習をすることによって、自分の自己実現をするということになると思います。

それに対して、高齢の方はこういうことを言われたのですね。私は毎日生きるのが楽しいんだ。生涯学習センターに通うことによって、私は毎日の生きがいを感じられるんだ、というのは明らかに生涯学習の効果として出ているわけです。ですから多分、清水さんは現役だから全然浮かばないのかなと思うんですけども。

**○清水委員：**そうだと思います。

**○佐藤委員：**現役だとすれば、もし生涯学習をやって、収入が上がると思ったらやりますよね。

**○清水委員：**まあそうですね。

**○佐藤委員：**だから、その辺のところのメニューが直結されているかどうかというところがまだ足りないのか。むしろそれを行政としてやる必要があるのかどうかというのは、やっぱり議論の余地があるのではないのかなと感じます。

**○樹田委員：**私も67歳から家でも仕事をやっていきますけど、サラリーマンを辞めて初めて、地場に置いたときに生涯学習に出会ったということです。本当におっしゃるとおり、それまでは非常に、生涯学習と云って、サラリーマン世界の中の世界ですからね。

そのときにちょっと私がここで話してもらったのは、本当はアカデミーでやっているのが生涯学習ではなくて、いろいろな区の中でも、あるいはいろいろな団体でも、いろいろな講座はやっていらっしゃるのです。それも含めて生涯学習というか学習といえば、もう少し大きい広がりになると思うのです。そのときには、現役のときにでもいい講座だなと思ったら飛び込んで行って受講したり、あるいは大学の連携講座で、アジアの問題のときには東洋大学で勉強していこうと飛び込んだり、そういう中にはやっぱり現役の方で飛び込む方もいらっしゃるのでしょうね。そこも広げてみればと思ったりしています。

**○山崎座長：**でも実は、なぜ学習するかというのが一番根本的なことなのですよ。やっぱりそこがないと、私自身は、中学の校長になって、入学式に子どもたちに、何で勉強するのかということ語りたかった。ところが、分からないんです。そんなことを考えたこともなかった。本を読むのが当たり前だというふうにして育ててきたんだから。だけど改めてどうするか。小学校を出てから1週間ぐらいしかたっていない子どもたちに、本当に分かるだろうか。悩んで悩んだ末に、何のために七五三をやるのかということを使って、あれは心を丈夫にする、弱いと身体中から魂が抜け出ていってしまうのだと、だからその魂が抜け出ないように、心を強くするために勉強するのだぞと云って。とにかくそうやって中学生に話している。

それでは、大人は何のために学ぶのか。だんだん私みたいに年を取ってくると固くなって、強いのはいいけど、強いと頑固になって固くなる。柔らかくするために勉強し続けなければと考え

ています。しかし、心を柔らかくする方法は実は分からないし、私も分からない。

だから、清水さんに僕が言えるのなら、現役として職場で学ぶことと、それからやっぱり専門でやるとどうしてもこうなるし皆さん固くなるから、ちょっと専門外のことで少しくいうふうにするほうがいいですよとか、私がもしアドバイスするとすればそういうことです。

でも、それはやっぱりあくまでも皆さん方は大人ですから、山崎は方便で言っているなとすぐに分かる。分かってしまうと、なかなか大人は……、

**○黒木委員：**子どもでも分かりますよ。

**○山崎座長：**だから、納得して「うん」と言ってくれないですよ。

**○黒木委員：**生涯学習ですから、そのステージによって狙うものが違うのですよ。職業訓練が必要な人は、専らそれが目指すところなんです。それは立派な職業訓練で、企業はやっていますよね。そのステージではやっているわけですので。

**○清水委員：**どうしても今子ども相手なので、学校の中だけだと教えてもらうのって、ただの勉強なんですけど、例えば昔の遊びとか、先ほどおっしゃいました文京学みたいなのというのは、まず学校で習うこともできないし、地域のことも、先生方は別のところからが来られている方がほとんどなので、そういうニーズに沿ったメニューみたいなものが、こういうのを子どもたちが教えてほしいと思っているので、そういうのを教えてくれる人をつくってほしいなということがあっても……、

**○黒木委員：**子どもについては2つあります。子どもが求めるものをやったら、ゲームをやりたいだとか、何だとかに走っていつちゃいますでしょう。そこは大人が目標を立ててリードしなきゃ駄目なんです。やっぱりそのときはかなり枠を決めて、ここから外れないように、それでどうするかというのはやっぱり興味を持たせるわけでしょう、子どもには、何だろうなど。それで自分が動き出せば、どんどん勉強するんですから、やっぱりそれぞれのステージがあるんですよ。

大人についてはあまり枠をやって、こうやれああやれできないから、自分の関心の高いところでやるわけでしょう。だから、生涯学習の大きなフレームで、ある段階で、それぞれの生活のスタイルで、テーマが決まってくるわけですね。

**○榊田委員：**私はある団体の講座をしているのですが、OBになった人たちが中学校、高校の現場で学習をやっているのですよね。それは今までの経験したものを1講座ご紹介するというので、やっと講座が学校のほうでやってくださいと出来上がってきたというのがここ1～2年です。その準備にやっぱり4～5年かかりましたけど。

**○清水委員：**寺子屋みたいな。

**○榊田委員：**寺子屋じゃなくて、教室の中の講座のときにそういう特別講座を持つというか。

**○佐藤委員：**ある消費者の団体なのですが、消費活動というか、消費研究をずっとなさっている団体がいらっしやったのですが、その方に私は講師を依頼したことがありました。そうしたら、依頼された日からその日までずっと勉強されたそうです。それは決してすごくよかった講義でもなかったのですが、一生懸命やられていることだけは感じて、終わった後に「どうもありがとうございます」と言われたわけです。これがまさに生涯学習の持つすごいダイナミクスだなと感じました。発する側の問題と受け取る側の問題ですね。

**○山崎座長：**僕は別の意味でいうと、よく言うのだけど、大学教育がもう最終のものではなくな



ってきているから、だから賞味期限が来ている。その先はやっぱり、生涯学習でつないでいく以外ないんだろうなという感じはしています。

**○黒木委員：**ですから考え方としては、そういう大学に替わってだんだん学び方に気が付いてもらう、学んでもらうよりしょうがないのです。

**○山崎座長：**そうですね。

**○黒木委員：**だから、教わったものをどう使うか、それは教えやすいですけども、そうじゃなくて、教わったものを通して自分の生活なりテーマに関して、どういうふうに取り組んでいくか。そういう人は図書館にも行くでしょうし、人を訪ねても行くでしょうし、大学に改めて入るかもしれないし、その学び方でしょうね。

もちろん一部知ることを楽しむ、知的好奇心を満たしてよかったよかったという人はいっぱいいます。それはそれでこの統計だって、文学系だとか学問系のもをもっと勉強したいとかあるでしょう。それはそれで、その人がそのステージで今欲しがっているんだから。

**○佐藤委員：**ちょっと扱いが小さいですけど、だから学習相談というのがいかに大事かということですね。今黒木さんが言われたように、迷われたら聞いて、何をすればいいかというアドバイスもしてくださるわけですね。

**○黒木委員：**そうなのですよ。

**○佐藤委員：**次に何をやってほしいのですか、大学へ行ったほうがいいのかという問いをして、お答えいただけるというのは。

**○黒木委員：**だからむしろ私たちは、一般生涯学習相談というのは、そちらのほうを目指しているわけです。だから、人は当然健康を勉強したくなる時期があるでしょう。介護のことを勉強したり、あるいは改めて『源氏物語』を読みたいという人がいる。それは、すべてどういうところに場があります、どういうチャンスがありますとこちらは提供できるのです。そうすると、これは……、

**○山崎座長：**そのことで僕が行政に聞きたいのは、今例えば老人がやっぱり病気になる。いろいろなことを調べたい。そういうときに、そういう医療関係の本は文京区の図書館はどこへ行けばいいのか、ということがあるんですね。だから、その辺のところをみんなが分からない。あるいは、そういうふうな意識で図書館のほうも構成しているのかどうか。

**○八木課長：**必要に応じてどこの図書館にその本があるかということはお尋ねいただくと、それなりの回答が来るのだらうと思いますし、あるいは図書館ではなくて、行政の分野でわれわれが担当している仕事であれば、一定の数の区民の方にご要望があると、出前講座ということで直接お話をさせていただくということで、例えば介護保険あるいは介護について聞きたいということでリクエストがあれば、区民の方にお届けする講座というのもやっております、こういったご利用もありますので、それも広い意味では生涯学習でもあります。窓口で1対1で聞くのではなくて、グループに対して区の職員が入っていく。このような形はございます。

**○佐藤委員：**やってみたいと思うのは、今先生がお問い合わせされた問いを、住民同士で答えることができるというのがいい社会かなと感じるわけですね。行政が答えなければならない義務はなくて、別に住民が答えたっていいわけです。むしろ住民に聞いてほしいですね、どうすればいいのと言って。住民が住民に答えれば、逆に言えば行政はそれだけ手間が掛かりませんので。むしろそういう人たちを支援さえしてもらえればいいという感じになるので、新しい行政のあり

ようも出るかなと。

**○山崎座長：**今僕が聞いたのは、例えば医療関係の本は真砂中央図書館にありますというのなら調べに行くわけですね。そうすれば、行政を煩わさなくても。

**○黒木委員：**そうですよ。やっぱり図書館に行き慣れている人は、使いいいということを使うし。

**○山崎座長：**確かに今までは、どこの図書館もいろいろな本を集めるから、だけど資源に限られているのだから、この図書館はこんな特色があるというふうにしなないといけない。

今、たまたま僕がかかわっているのが荒川区なのですけれども、荒川区は今その特色を出そうと。例えば児童文学に関して柳田邦男さんが助言して特色をうんと出そうと、それをトップに持っていこうと、今そんなことをやっているのですね。

文京区の場合は、資源がいっぱいあって、いろいろなところに散らばっていることは事実なのだけど、それでいいのだろうかという感じがちょっとするし、それから生涯学習を進めていくときに、やっぱり何かちょっと調べたいとか、そのときに大体、例えば清水さんがお仕事から帰ってきて、8時過ぎてちょっと図書館に寄りたいといったときに、図書館はどこも空いてないじゃないですか。これでいいのだろうか。

例えば、秋田には24時間開いている図書館があるわけですから、だからやっぱり大学もその責任の一端を負わざるを得ないのです。

だから、そういう意味でいろいろなところのご意見がどんどん出ているので、とにかくあそこにあれだけ集まってきたわけですから、もし補足することがあれば、どんどんこの機会に。

**○事務局：**だいぶ方向性のほうに皆さん議論していただいているので、そこはどんどんやっていただければと思うのですが、コンサルとして今回の計画に、特に生涯学習の分野に何を期待するか。例えば行政計画ですから区民が参加しやすいものにしますとか、場所を確保しますとか、ネットワークを構築します、それはもちろん必要なことなのかもしれませんが、書かざるを得ないものかもしれませんが、それだけじゃあまり面白くなくて、文京区の生涯学習を推進する意味は何なんだろうとか、そのあたりでどういったメッセージを計画書の中に、この分野別の生涯学習なら生涯学習の中に期待するか。

例えば、それは人が人たるに値するものであるために生涯学習を勉強したらいかがですかとか、その辺のところを今後の方向性の中に盛り込んでいければ、面白いのかなという気が、今の皆さんの意見を伺っていてコンサルとして感じたのですが。

**○梶田委員：**ちょっと私はここに書いたのですが、学習成果が自分1人だけのものじゃなくて、近所や隣同士もありますし、サークルもあるし、町内会もあるし、そのようにもっと行けばもう少し、地域活動センターがあるところの塊で展開できる、それでみんな健康で楽しく活動できるというのが、最終目的になるかと思うのです。その間は全部プロセスです。プロセスでありながら、勉強して楽しむというものもありますけど。そう私は思って、人材活用という言い方もありますけれど、アウトプットはそちらのほうかなと思ったりしているのです。

今、隣同士が声を掛けられる町と、あるいは段階的に年齢層で掛けられないということがありますでしょう。それが少しでも声を掛けられる場ができればいい。私は、今回、マンションに消火器を付けるために、全部屋を、業者に任せたら日にちがばらばらなので、私が全部工事の説明に入った。その住居とはコミュニケーションができたので、そういうのが一番生活の場に最初できて、レベルが上がったり、助け合ったりすること、最終的かなと思ったりしているのです。私の個人で感じたわけです。

**○山崎座長：**例えばコンサルタント側からの今の感想があったわけですね。それに対して例えばわれわれがどう答えていくかという、いつでもどこでも丸ごとキャンパスということがあったわ

けですね。それと同じようなことをもしやるとするならば、私自身 70 年生きてきて思うのは、人は人に出会って人となるということを痛切に感じているのです。そういう意味で、人になるという、つまりこの生涯学習を通して、人がいろいろなサークルで出会って、職場でもいい、あるいは地域社会でもいい、そうやって人が人と出会って、やっぱり人として成長していくのだ。そういう思いをここのところ強くしているものだから、もし例えば今のような感想に関して、私自身はそれを 1 つのメッセージとして言えるかなという思いで今聞いていたのです。皆さん方の中にいろいろと……、

**○黒木委員：**そのとおりですね。人に接して刺激を受けて、好奇心もわき、勉強もするのでから、だからワンウェイの勉強もありますけれども、大学のセミナーみたいな形でそれぞれ議論しながらというのが、一番考える視野も広がるし、そういうことだと自主学习サークルみたいなのが割合自由が利くのです。

**○山崎座長：**どうですか。どんどん言ってください。

**○渡辺委員：**私は先生がさっきおっしゃった「よい区民をつくるために」というのが、まさにそうだなと思ったのは、やっぱり一歩外に出て行って、そういった集まりの中に入っていくと、こんな方が近所に、自分の隣町にいらしたのだなという方と一緒にいるわけですね。そうすると、移り住んできた者も、その地域というものを感じるわけです。学びはほかの全然違う課題で学んでいるんですけども、その地域とのかかわりができてくるわけなんです。それによって、この地域はほかの地域に比べてどうなんだというのも自分の中で感じるし、考えさせられることになっているんですね。

だからそれをもっと、いろいろなカルチャーセンターとか、ほかの区でやる講座で学ぶのではなくて、何で文京区で学ぶのかといったときに、やっぱりさっきの文京区の歴史とか、文京区ならではのことを、例えば出前で小学校に生涯学習課から教えに人材派遣をして講師を要請するとか、そういうことを区がお金を出して生涯学習をやるというのは、やっぱりよい区民を育てるために必要なことなのじゃないかなと。何かそういう柱が立って、生涯学習の講座も組み立てていければ、一本柱が見えてくるのではないかなと私はお話を聞いて思いました。

**○佐藤委員：**私はちょっと意見を変えて、よく生きるというのが何となくテーマとしていいかなという感じがして。生きることであれば、働いて、ご飯を食べて、寝れば生きられるんですけど、多分その中に生涯学習という、何かよく生きるエッセンスが欲しいなと思ったときに、それは必ずしも人ではなくてもいいんじゃないのかなという感じがします。小石川植物園の中でたった一人たたずんで、木の流れを見るというところから歴史を感じることもできるかもしれないし、ひょっとしたら先生からお話があったように、茗渓会館の前に行ったときに、茗という言葉や、字を見るだけでその人の人生がよく生きることもできるかもしれないということがあることについて、感性の高い人間をつくるというほうがいいのか。そのようなものが、何となく文京区民としていいんじゃないかなという感じがします。感性が高いところ、感度が高い人をつくるとでも言ったらいいのですかね。

**○山崎座長：**どうですか、もう少し自由に。

そうすると、コンサルタントのほうでうまくまとめて、再度意見の提供を。まとめは向こうに任せて、その代わりわれわれは材料を提供しましょう。

**○梶田委員：**本当に今生涯学習の勉強に出てきている、参加している人は恵まれているのですよ。参加されない人たちは、本当に孤独でいらっしゃる部分があるんです。それをどうみんなでカバーしてやるかというのが、本当は全体の区としての役割になるんですね。

私はこの学習だけじゃなくて、妻が亡くなった後、毎月 1 回仏教の勉強会を、親鸞さんの歎異

抄から始まって。その前に私は 50 で、人間は生身だということをごんで経験していますから、人間は 1 人で生きられない、生身だということから、やっぱりみんなは本当に助け合うという言葉はないとしても、心の支えにしながら、ある役割の下にみんなが支え合っていくところが、なかなか実感しないところだから、体験の中でもありますから、そういう部分が表現の中で少し目線を高くとか、その辺の表現が入らないかなと思ったりするのですね。

それから、一生懸命例の区報は読んでらっしゃるんです。ところが出てこれられない。それは、仲間がないから参加できないかもわからないということがあります。

出前教育もやっていただいているのだけど、それを発動するのが、誰かがやってやらないと始まらないというところがあります。

そういうのを入れていただければ、全体の目標の部分と多少そういうところも欲しいなと思います。

**○山崎座長：**確かに学習をやるよとする意欲が、あるいは多少消極的でも受け身でも、講座に参加しようという人はいいいのですよ。確かに何もしない人をどうやるんだというのは、非常に難しい。

**○榎田委員：**難しいです。

**○山崎座長：**そのためには、やっぱり魅力的な講座を設ける以外ないのだろうと思う。そうすると、当然あそこに出てくる講座の中身、その学習メニューの中身の検討がもう一回迫られるのかな。

**○榎田委員：**あるいは私はここじゃなくて……、

**○山崎座長：**それから逆に働いている人でも、専門的な知識の再教育ということがあってあり得る。あるいは補助的に、専門的な講義を例えば大学院で 1～2 週ちょっと聞きたいと。ところが、今それは大学のシステムの中でなかなか許されないんですね。ちょっと 1～2 度聞かせてほしいというのは、もっとそういう自由があってもいいんじゃないか。

うちがマネジメントをつくるよきに、1 年で何とか卒業できないだろうかと考えたのよけど、最初はやっぱり無理だったのよです。1 年 6 カ月ぐらいで卒業できるよな、それは何を考えたかというよ、例えば、文京区のと長クラスが 1 年間そこでマネジメントを学んだら、戻ってきたら次のステップアップになるよな、あるいはそこで学ぶよなものが必要なのかなと思っただよです。

だけよ最初はマスター 2 年というよのは、やっぱり職場でもなかなか出してくれない。だから、もう少し大学の大学院がもっと自由になって、そうするとその専門の人でも、例えば企業から派遣されて 1 カ月なら 1 カ月そこで講義を受けられる。そういうよことがあってもいいんじゃないかなと。

**○黒木委員：**それこそ区と、早くやってくれる大学と早く始めちゃったらいいのよですよ。

**○山崎座長：**そうなのよですね。大学は非常に保守的だったよです。特に国立はそうなんよですね。

ところが独立行政法人化になってから、その地域社会にどれだけ貢献するかというよところがポイントになるものよだから、一生懸命今開放してくれているよんです。かえって国立のほうが進んでいて、私学のほうが逆に駄目だと。

**○黒木委員：**そうかもしれませぬね。

**○山崎座長：**ええ。そういう意味で、今中身が問われるのかなと。

**○清水委員：**生涯学習に、大学とかそういうよところで時間が合う人が行くとしたら、僕は例えば

今そういう時間がないとすると、あまり身近ではないのですね。場所も限られていたり、時間も限られているというのは、やっぱり参加しづらい、できないと最初から自分でハードルをつくってしまっている部分もあると思うので、そこで学ばれた人とかが、例えば町会とか自分のいる団体とかで、どういうことを学ばれたというのをむしろわれわれは情報として知っていれば、そういうのを教えていただけませんかとお願ひする機会が生まれる、そこで交流が始まるのではないかなと。例えばうちの3軒隣には、こういうのを学ばれた方がいて、もしかしたらこの地域の人にも聞きたいと思っている人がいるかもしれないということも、もちろん私がこういうのをやっているのを公開しますと言った人に限られちゃうとは思いますが、教えてもいいと言ってくれる人が、もしいたとすれば、そういうのを小さい町会とかそういう単位で聞けるようなシステムがあったらいいなと思います。もちろん学校に出てきていただいて教えていただくとか、そういうのもすごくありがたいなと思います。

**○榊田委員：**若干最近は個人情報の関係で制約があつて。

**○山崎座長：**そうなのです。それとやっぱり都会の1つの難しさですね。相矛盾するのだけど、そういう煩わしさを逆に避けようとする人たちがやっぱりいるわけですね。だから、そのところが難しいですね。

**○黒木委員：**今、キャリアは置こうとしているのですよね。

**○山崎座長：**そうなのです。

**○黒木委員：**そして、地場に付着というよりも、目は外に向いていますから、世界に向いていますから、わざわざここじゃなくていいやと。勉強だつてそうです。文京区でしなくていいというのは山ほどいますから。そういう人もいます。また、どうやったらいいか分からない人たちもいるというところで、どの辺に手を差し伸べるか、目を配ってやるかというところ、これは全般で割り切れないでしょう、限られたものとか。そうすると時期、時期にしていくか、どうするかということになっていっちゃうと思うのですね。

**○山崎座長：**だからそういうときこそ、例えば文京区で生涯学習をやることの目的とかなんかを明確にしておかないと、やっぱり具合が悪いのでしょうね。

**○黒木委員：**そうです。だから、今年度はこの範疇のカリキュラムでやるとか、やらざるを得ないかもしれないし、あるいはどこかの大学がこの範疇、こっちの範疇にしてもらおうとか。ともかく人間を扱う世界だから、幅広いんです、あらゆるところで。

**○渡辺委員：**千代田区がやっている人材バンクみたいな制度をうまく確立してあげて、やりたいという方に登録していただいて、区民プロデュースなんかをやっていると、みんな教えたがっている人がいっぱいいるのですよ。ボランティアでもいいからやりたいという人がたくさんいらっしゃるんで、何かそういう方の意識をつぶさないようにしてあげるのも、こちらサイドの方法じゃないかなと思います。

**○佐藤委員：**1回フィルタリングを掛けないと怖いのは、自主申請してやりたいと言って実は聞いてみたら、全然教えるまでのところまで到達しなかった人というのも多々あるとは思いますが、1回その辺はこちら側で受け止めてフィルタリングをする必要があるから。だから学習相談はまさにうまくいっていますね。1回われわれのほうで受け止めて、きちんとした形でお返しするというのができているので、うまくできているなと思うのと。

あとeラーニングなんかを、例えば青山学院大学は今eラーニングをやっているのですけど

も、ああいうのをもっと積極的に取り入れていくとか、われわれは質問とかスカイプで。

○黒木委員：ちょっと尻切れとんぼで、何かちょっとやっただけで。

○佐藤委員：スカイプなんかでやると、大阪の人間と東京の人間とオンラインで会議とかがやれちゃうのですよ。みんなで共通のボードを使ってやったりすることもできるので、そういうハイテクの機器を少し活用すれば、お忙しい方だったら、夜の2時からだって勉強できますので。

○黒木委員：そのとおり。夜にメールでやりとりして勉強できるんですからね。

○渡辺委員：今も少し日本女子大学でやってらっしゃるのです。

○黒木委員：ちょっとね。

○佐藤委員：あそこまで敷居が高くなくても、もう少し手軽に入れるだけでもいいと思うので、何とかできないかなと。

○山崎座長：多くの意見が出てまいりました。司会進行が悪くて、なかなかそういう意味では3ページのところに戻ると、ステップ1～2ぐらいのところですかね。3とか4とかいうところまではなかなか行きませんでしたけど、まだ今日は問題をとにかく総ざらい、一応出してということですから、眺めてみたときに分野ごとにはかなり出ているのではないかと。あとは、総研さんのほうでもうちょっと整理をしてもらった上で、次の機会にわれわれはもう少し整理した上で意見を出し合っていく。例えば学習の中身の現状をもう一回押さえた上で、どこに問題点があるのかということ踏まえて、そして、3ページのところの解決、方向についてということが残っていますから、当然この次はそこのところから出発をするというような形で、今日の会を閉じさせていただけるとありがたいと思っています。そんなところでよろしいでしょうか。

それでは行政にお返しします。どうもありがとうございました。

○事務局：最後に事務局のほうから1点だけお願いがございます。

お配りしました分科会のご意見シートでございますが、こちらも同じように連休明けの5月6日までに、感想、ご意見等がございましたらご記入いただきましてと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○八木課長：大変ありがとうございました。皆さまのご発言で、学習を通じて人と人がつながるといふ、実際はそうだろうなと思ひながらも、あまり考へてなかつた部分をちよつとご指摘いただいているような感じがありまして、そこは大変有り難かつたといふのが1つあります。

逆に、どなたかが最初におっしゃつたんですけど、実は聞くだけでも満足といふ、よく生きるといふことはまでは考へなくて、本当に気軽に生きていきたいといふ方も私たちのターゲットにしなくてはいけない部分もあるかなといふところを、またお考へいただければ大変ありがたいといふご要望と、感謝といふことで、ありがとうございました。

○山崎座長：どうもありがとうございました。

以上